

さらなる高みを目指して

PTA会長 貝谷 春則



3年生の皆さん卒業おめでとう。岐卓高校創立140周年の記念の年に卒業する皆さんはしあわせです。一生の思い出となるでしょう。

また新校舎、新体育館完成で一段と快適となった学校で三年間学んだ最初の生徒でもあります。

皆さんは、三年前の4月に期待と希望と、ほんの少しの不安を胸にしてこの伝統ある岐卓高校の入学式に臨みました。最初に抱いた目標は達成しましたか？勉強や部活動、学校行事に積極的に取り組み本校で得た、総てのことは皆さんの宝物です。

希望の大学に進学することは、本校の生徒にとって最も重要なことでもあります。さらに人間的に物事に対して優しく強く賢く成長することを望みます。全国でもトップクラスの教職員の方々にいただいた知識と岐卓高の「百折不撓・自强不息」の精神で

今後の人生を切り開いていってください。百四十年間の長い歴史の中で本校は政治家になり大企業のトップとなり、医学博士となり日本をリードする先輩を大勢輩出してあります。数年後の皆さんの活躍の報を楽しみにしております。

保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。長いようであつたという間の十八年間でなかつたかと存じます。限らない愛情をそそぎ、逞しく成長した子供たちを見て、大変嬉しく思うのと同時に、我が子が自分達の手から離れていく寂しさも感じるのでないでしょうか。

しかしながら、いくつになっても子を思う親の姿は昔も今も変わりありません。今後とも子供たちの更なる成長のため、暖かく見守って頂きたいと思えます。

皆様にはこの一年PTA活動に対するご協力とご支援に心より感謝申し上げます。

皆様と同じ時代に同じく子育てをした保護者として、最近の情勢には少々不安もありますが、岐高の子供たちは自分の夢実現に向け突き進んで行くことでしょう。

卒業される皆さんへ

3年学年委員長 丹羽 隆

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

憧れの岐卓高校に入学されてからの三年間、皆さんは思い描いていた高校生活を送ることができたでしょうか。入学当初は膨大な学習量に困惑し、また、それを克服し、部活動では、勝って喜び、負けて涙したこともあったかと思えます。それらの一つひとつが今後の皆さんの生きていく上での糧となることでしょう。

今、人生の岐路に立って、自分の目標としていた進路に進める人も、願いがかなわなかった人もいるでしょう。今まではどの大学・学部に進学できるかが最大の関心事だったと思えますが、大学では何をどのように学ぶかが重要になります。これまでは、岐卓高校という最高の環境で、至れり尽くせりの状態で学んでいたと思えますが、これからの大学生活ではすべて自発的・能動的に学ぶことになります。言い換えれば、大学生活が充実し、今後社会に出て行く上で必要なことが学べるかどうかは、自分自身の考え方、努力しだいということですが、進学先では、是非、自分自身を信じて、志を高く持つて学ばれることを期待します。

卒業

おめでとう

です

3年学年副委員長 森下 英子

入学式の日、白く輝く真新しい校舎を見上げ、これから始まる高校生活に親子ともども期待に胸を膨らませながら校門をくぐったのが、つい昨日のことのように感じられます。そして卒業のときを迎え、これまで熱心にご指導いただき、大きく成長させてくださった校長先生をはじめ諸先生方には心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

この三年間、息子は素晴らしい先生方の教えを受け、友情を育み、恵まれた環境の中で高校生活を過ごしました。私もPTA活動を通して魅力的な保護者の方々との出会いがあり、また様々な行事からは多くのことを学ばせていただきました。140周年記念式典に出席させていただいた折には、改めて岐卓高校の歴史と伝統の重みを感じるとともに、肅然と式に臨む生徒の姿に賑々と受け継がれるものを見た思いがいたしました。

新たな一歩を踏み出す卒業生の皆さん、この高校の卒業生としての誇りと校訓を胸に、これからも自己研鑽し、経験を積み、苦難を乗り越え、豊かな人生を歩んでください。皆さんの未来が大きく花開くことを願っています。

卒業おめでとう

進路指導部

3年生の皆さん、卒業おめでとう
ございます。卒業の喜びと、前日
程の試験を無事終了した喜びで一杯
なのではないでしょうか。三年間頑
張った成果を十分に発揮できたと思
っています。前期での合格を折って
いますが、中期・後期日程に向けて
最後の最後まで諦めずがんばって
ください。必ず幸運の女神は、君たち
にほほえんでくれるものと確信して
います。



センター試験岐阜薬科大学会場

めでたく高校卒業を迎えることが
できた本日、まず一番にこれまで育
てていただいた保護者の方々に感謝
してください。また、当たり前によ
うに思うかもしれませんが、これま
で、無事に成長することができたこ
とをありがたく思いました。
最後に、これから広がる自分の未
来を見つめて心に自分自身の矜持を
しっかりと刻み、活躍されることを
期待しています。

ていますが、世の中は順調にいくば
かりではありませんから、時には挫
折し苦しむこともあるでしょう。し
かし、そこで挫けず、乗り越えてい
く逞しさを発揮することこそが、校
訓「百折不撓」の目指すところだと思
います。



応援団

平成26年度入試 大学入試センター試験自己採点結果(対全国 平均点比較)

		国語 (200)	数学ⅠA (100)	数学ⅠB (100)	英語 (200)	リスニング (50)	世界史B (100)	日本史B (100)	地理B (100)	現代社会 (100)	物理Ⅰ (100)	化学Ⅰ (100)	生物Ⅰ (100)	6-7文系 (900)	5-7理系 (900)
本年度平均点	本 校	124.7	79.6	73.7	159.1	41.4	76.7	77.7	78.5	65.6	77.8	85.2	68.2	651.9	683.3
	全 国	98.7	62.1	53.9	118.9	33.2	68.4	66.3	69.7	58.3	61.6	69.4	53.3	534.0	566.0
昨年度平均点	本 校	130.1	68.1	73.9	162.3	39.7	75.1	76.6	71.9	72.2	78.0	78.0	80.6	654.9	672.2
	全 国	101.0	51.2	55.6	119.2	31.5	62.4	62.1	61.9	60.5	62.7	63.7	61.3	530.0	550.0

総合点は河合塾予想 他は大学入試センター発表

センター試験岐阜薬科大学会場



センター試験社行会

1月18日(土)・19日(日)の両日、
大学入試センター試験が行われ、本
校は岐阜薬科大学で受験しました。
本校の生徒諸君はおおいに健闘し
てくれました。生徒個々には良かつ
た生徒もいれば、思うようにいかず
悪かった生徒もいたようですが、二
次力のある本校生は、前期試験でそ
れぞれが自分の実力を大いに発揮し
てくれたことと思います。
また、中期・後期試験と続きます。
最後の最後までがんばって下さい。

大学入試センター試験

先輩から後輩へ

「センター試験を終えて」

東京大志望

センター試験の結果は、合計得点で見るとまずまずかなと思う。あとは二次試験の勝負になるので、あと一ヶ月しっかり対策していきたい。試験当日はあまり緊張せず平常心で臨めた。マーク式の模試を今までに何度も受けてきたので、模試と同じような気持ちで取り組むことができたのだと思う。こういうシミュレーションはとても大事だと思った。試験会場の教室は寒かった。始めは暖房をしてもらえるので、暑くなるだろうと勝手に思っていた部分があり、1日目にあまり厚着をしなかったのはまずかった。他の教室は暑いところもあったようなので、温度調節が効く服装にするのが良いと思った。それに、近くのトイレは異常に混んでいた。とにかく、あと一ヶ月が重要なので、この期間に、二次試験に対応できる学力を大きく高める自信をもって二次試験に臨めるようにしたい。

東京大志望

東大の入試はセンター1・2次4なので、センター直前まで二次対策をしていました。但し、地理だけは12月からずっと勉強していました。センター演習もありましたし、楽な気持ちで本書に臨めました。無駄に緊張せずに試験を受けることができたので、良かったです。しかし、勉強しないところは伸びないものです。776点という点数は、自己最高記録ではあるのですが、もっと欲しかったです。センターの勉強は足りなかったと思います。それとセンター試験は何が起るかかわかりません。数1Aでは、マークがずれていることに終了の2分前に気づきました。何となく直したのですが、その影響が、次の数2Bが分からない。最後の最後にやられてしまいました。

東京大志望

最後のセンター特編とほぼ同じ点数で、予想していたことが、結果はあまりよくなかった。セ

ンター前日の午後はさすがに緊張していたが、当日はそれほどでもなかったのに、残念。個々の科目を見ていくと、目標点に届いたのが、7つのうち3つ。前日の学年集会では7分間で御の字と言われていたので、まあまあかなと思うが、国語と生物はひどかった。生物に限って言えば、知識を予想以上に突っ込まれて、焦ってしまった部分もあったので、なめていると痛い目にあうというのは本当だと思った。ただ、東大に関しては、まだ全体の2割の得点が決まっただけにすぎないので、これからの切り替えの方が大事だと思う。数1Aの時、マークミスをしたが、終了前に訂正できたという幸運もあったので、天は我を見捨てず」と信じて、これからあと35日間頑張っていきたい。

京都大志望

センター前日の先生方の励ましがとてもありがたく、心にしみました。先生方の言われるとおり、本書では、もう済んだ教科のことを気にせず、前だけを見るように心がけました。「微妙……」と思う教科があっても、次の教科が始まる前の静かな十分間に、必死に自分を励ました。「最後の1秒まで集中できた！ まくれ当たりもあるかも！」次の教科で満点とればカバーできる！」と。最終的な結果は、喜ぶほどでもなかったけど、カンで答えた問題が合っていたり、間違った問題の配点が低かったり、思っていたより良い点数が取れました。無駄な心配をせず、前向きにやっただけ良かったと思います。

京都大志望

学校で、センター演習を本書のように解いていたので、試験中は極度に緊張することはありませんでした。ただ国語の試験の後、失敗したかなと思いましたが、お手洗いにいき、自分の顔を鏡で見ながら、大丈夫と言いついて、自分の顔を鏡で持たえたええように思います。自分が失敗したかと思ったら、友達と答え合わせなどせず、次の教科に切り替えることが大切だと思いました。2日目は、数学2Bの大問の一つに焦ってしまい、答えが上手く出せなかったことが唯一後悔していることです。センターは本当に時間がないのですが、

すぐに焦らず、時には始めの方までさかのぼる落ち着きと、勇気も必要だと思います。結局、入試は総合点です。一つの科目を失敗したら、次の科目で取り返せば良いのです。くれぐれもいつまでも引きずらないでください。私も早速、二次の勉強にシフトします。

岐阜大(医)志望

何回も模試を経験してきたから、緊張なんてないだろうと思っていたが、いざ本番となると今までにないくらい緊張が、落ち着くことがなかなかできなかった。抜いたのは、仲の良い友人と席が近かったこと、話すことでいつも通りの調子を取り戻すことができた。ただ、答え合わせはやるべきではないと痛感した。自分は友人と答え合わせをした訳ではないが、周りが聞こえる「答え」の声は、非常に不安となってしまう。相手にしないことが一番。空き時間が長いので、外の空気を吸い出したり、トイレに行ったりする時間は十分にある。その時間を有効に使うことが満足感の行く結果を残す鍵となると思う。センター試験は通過点なので、センターで燃え尽きないようにしたい。良からうと思えろうと、悔みせず悲観せず、継続的に学習を進めていきたい。

三重大(医)志望

まず奇跡はあるものだと考えた。夏はら割5分、センター特編でも割割しかとれなかった自分がセンター本番で、ここまで取れたのは奇跡としか思えない。本番では緊張しながらも冷静さを保とう、せめてそのふりをしようと思いついた。朝、友人と会って挨拶を交わしたり、話をしたりすることで、緊張が解けていったのだと思う。試験中、机の上には父親から借りた時計と袖からもった時計を置いた。試験中焦っている自分気づいたときには、時計を見て「大丈夫」と思うようにした。落ち着いていくこと、これが一番大切だと思った。「努力は人を驚かさない」というのは本当だと思った。それから改めて周囲の人への感謝を忘れてはいけないと思った。励ましてくれる友人、先生、家族のおかげで落ち着いて臨めたのだと思う。ただ、目指す所にはまだまだ足りないという現実を受け止め、二次進取できるように、最

後まで気を固めないで、力をつけていこうと思います。

名古屋大志望

一日目、会場に行く時はかなり緊張感がありましたが、会場の入口で、学校の先生や、先輩、友人に応援され、緊張感も少なくなり、比較的落ち着いて試験を受けることができました。今までのテストで間違えた問題をまとめたノートを直前に見直すことで、苦手分野を復習して、自信をもって受けることができました。数学は計算量が多くて焦ってしまいましたが、落ち着くように言い聞かせて、何とか乗り切ることができました。英語では去年までとは違う傾向の問題がありました。英語が、しっかりと読んで、正確に答えることができました。国語は、センター特編でもあまりよくなくて、不安でした。終わったあとでもできたのか、できなかったのかよく分からない状態でしたが、この気持ちをひきずってほめたと思いつつ、しっかりと切り替えることができました。センターでは必ず緊張すると思いますが、精神面のコントロールが大事だと思いました。

名古屋大志望

当日の朝は、先生方に声をかけてもらって、元気をもらい、とても嬉しかったです。ありがたうございました。先輩方の話を聞いて、プランケットやカイロを多く持って行きました。一方で、制服の上着を脱げるようにもしておきました。私の会場は、休み時間も暖房が付き、ぼーっとするほど暑くなりましたが、テスト中は涼しい感じでも過ごしやすかったです。試験監督の方々の話は毎回同じ部分があるけれど、注意深く聞くとうれしいと思いました。携帯は切ったか、受験番号は書いていたかなど、その度に確認するのを、途中で不安になり、テストに悪影響が出るのを防ぎました。マスクをつけている人は、確認があったようなので、途中で声をかけられたのかなかったら、外しておくべきです。休み時間は35分ほどあるので、どうやって過ごすか考えておくとうれしいでしょう。トイレにも時間がかかるし、信頼している先生のプリントをお守りにして見ておく、音楽を聴くなど考えておくと良いです。

自分らしく前へ

3年学年主任 宇野 聡

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。岐阜高校で過ごした高校生活はいかがでしたか。様々な事柄が思い出されることと思います。やりたいこと、やらねばならないことが沢山あり、追われるような忙しい毎日でも、とても充実した日々を送ったことでしょうか。私自身も、入学式からあっという間に過ぎた三年間であり、みなさんと二年間一緒に過ごしたことを、とても誇りに思います。本当にありがとうございました。

さて、高校生までの期間は、多くの同級生が揃って行動し、周囲の大人から指示をされる場面が多く、君たちはいわば「訓練のために保護された子供たち」でした。ところが、これからは、君たちは「大人」として扱われます。つまり、今日までのように生活の細かいところまでは誰も決めてはくれないし、管理しようとしません。最低限自分がやるべき事を果たしている限り、その他の事は誰にも管理されない生活が始まります。そしてそれは、一生続く「自由」の始まりです。

この自由な人生では、自分以外の誰も責任を取ってくれないし、そもそも責任を取りようがありません。つまり、自分の人生については、嫌でも自分自身しか責任を取ることができないし、また、逃げることもできません。だから

からこそ、自分の人生について妥協せず自分の思うように生きてください。もちろん、人間が一人だけで生きていける存在ではなく、世の中が人と人で成り立っている以上「人間関係の構築」は避けて通れないものであり、「人間関係を円滑にすることが、快適で充実した人生を送る必須条件です」。

この一回しかない人生を直視し、ここで改めて真剣に自分は如何なる社会的存在になりたいのか、そしてそのためには如何なる条件が必要なのかを考え、日々正攻法で努力を重ね続けてください。人生は、長いようで短く、短いようで長い。努力しながらひとつのキャリアを求め、得て、果たして、いく中で時が流れていきます。その間、成功も失敗も、友情も恋愛も、沢山の楽しい事や悲しい事がやって来て、人生を豊かにしてくれます。そして、それぞれの出会いを有益なものにするか否かは、全て、その時の自分自身の姿勢にかかっています。

本校を卒業する君たちは、三年間本校の校訓である「百折不撓・自強不息」のもと、不屈で逞しい精神力をつけ、「文武両道」をモットーに知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性を身につけてきました。だから、臆することなく自信を持って、自分らしく前へ進んでください。大丈夫、君たちならできる。

3年間の思い出



3 力年皆勤者 (合計91名)	1組	今井田 耀 松岡 采高 山田 有望	北川 智也 松原 聡志	蟹見社二部 毛利 匡裕	高橋 祐子 山田まこと
	2組	五十川凌平 大澤 秀明 高橋 宏佑 関宮 彩愛	福見 将宏 黒玉 大地 田口 奈央 山下 秀人	宇野 佑弥 清水 大器 前田 美子	遠藤 健太 高橋 花凛 松原 孝成
	3組	伊佐地隆人 笠井 崇気 永木 鈴子 吉村 瑞希	市岡 佑樹 河合 美風 水野 彩	宇佐美 玄 酒井 菜緒 溝口 格生	尾関 優 谷 絢花 横田 萌
	4組	青木 良成 白木 啓文 中村 謙斗 伊藤 里紗	赤石龍士郎 鈴木紗緒里 丹羽今日子 岩田啓一郎	國島 和哉 櫻橋 由佳 藤田 駿一 宇野 真	小出 智世 土屋 里帆 山田 真夕 小川龍太郎
	5組	奥村 葉月 高橋佑希磨 水野 綾乃 伊藤 千華	川添 莉子 武田 紗輔 山中 美樹	下野 惇 野田 貴也	高木 翔吾 廣瀬 円
	6組	伊藤 千華 日比野有依	桂川 結貴 馬淵紗耶加	川瀬未見子 山口 結生	白木 彩夏
	7組	貝谷 徳子 原 佑奈 尾関 大地	小口 睦実 細野 瑞貴 加藤 翠	杉山 英里 堤江 誠 兼村 日菜	土岐英梨子 北村 早希
	8組	駒形 美緒 田尻 謙裕 太田 徳高 平光 竜馬	佐野 敦 中元 散星 田口有佑子	清水由紀乃 西野 莉奈	蟹見 謙 丹羽香津美
	9組				

同窓会幹事	1組	蟹見社二部・西岡 浩平	7組	土岐英梨子・宮部 翔
	2組	福 智教・松波 諒樹	8組	市田 雅貴・廣瀬 加純
	3組	大熊 尤貴・河合 美風	9組	齋藤 達郎・松原 宗輝
	4組	高井 一輝・中原 祥吾		
	5組	大塚万里奈・八代統一郎		
	6組	神野 宏規・日比野有依		

学年代表幹事
齋藤 達郎・西岡 浩平

平成26年度 大学合格者数

大学名	合格者数	大学名	合格者数	大学名	合格者数
北海道大	4	学習院大	3	名古屋学院大	1
筑波大	1	北里大	6	名古屋造形大	1
千葉大	2	杏林大	1	南山大	122
お茶の水女子大	2	慶応大	27	藤田保健衛生大	11
東京大	17	工学院大	1	名城大	66
東京外大	2	駒澤大	2	星城大	2
東京学芸大	1	芝浦工大	7	日赤豊田看護大	2
東京工業大	1	上智大	6	鈴鹿医療科学大	1
東京農工大	1	成城大	1	京都外大	2
一橋大	1	専修大	1	京都女子大	7
横浜国立大	5	中央大	25	京都薬大	5
金沢大	4	津田塾大	5	同志社大	97
山梨大	1	東海大	3	同志社女子大	5
信州大	6	東京医大	1	立命館大	100
岐阜大	53	東京女子大	6	大阪医大	1
静岡大	8	東京農大	1	大阪歯大	2
浜松医大	2	東京理大	44	大阪薬大	1
愛知教育大	3	東邦大	2	関西大	9
名古屋大	32	日本大	6	近畿大	13
名古屋工大	9	日本獣医生命大	1	関西学院大	6
三重大	5	日本女子大	4	神戸学院大	1
滋賀大	3	法政大	7	岡山理大	1
京都大	15	星薬大	1	福山大	1
大阪大	11	明治大	41	久留米大	1
神戸大	5	立教大	5	産業医大	1
島根大	1	早稲田大	37	立命館アジア大	3
岡山大	1	神奈川大	2	防衛医科大学校	1
広島大	6	マリアンナ医大	2	防衛大学校	2
山口大	1	フェリス女大	2		
高知大	2	金沢工大	1		
九州大	1	北陸大	1		
首都大東京	1	朝日大	1		
横浜市立大	1	岐阜聖徳学園大	9		
富山県立大	1	中部学院大	1		
岐阜県立看護大	1	愛知大	26		
岐阜薬大	8	愛知医大	4		
愛知県立大	1	愛知学院大	12		
名古屋市立大	12	愛知工業大	4		
京都府立大	1	愛知淑徳大	4		
大阪市立大	1	金城学院大	17		
大阪府立大	3	椋山女学園大	7		
和歌山県立医大	2	中京大	25		
自治医大	2	中部大	2		
東京歯大	1	豊田工大	6		
青山学院大	7	名古屋外大	1		

※浪人生を含む

岐阜県立岐阜高等学校 校歌

作詞 松平 静
 作曲 伊藤 栄治
 編曲 浅野 誠

せ じんのたけ きん かざん ひゃくりのみず な が ら がわ
 (が) かいのなみ あ ら く と も き ぼ う の き し と お く と も

か よ う の け ん じ こ こ に う ま れ て こ っ か の た め に あ け く れ ま な ぶ が
 か よ う の け ん じ こ こ ろ お お し く ひ ゃ く せ つ ふ と う

つ と め て や ま ず ふ る え ふ る え ほ こ る さ い こ の

れ き し あ る わ が こ う こ う の ほ ま れ を ば あ げ よ も

ろ び と も ろ と も 一 に

千仞の嶽	金華山
百里の水	長良川
華陽の健児	ここに生まれて
国家の為に	明け暮れ学ぶ
学海の波	荒くとも
希望の岸	遠くとも
華陽の健児	心雄々しく
百折不撓	つとめて止まず
奮へ	奮へ
誇る最古の	歴史ある
我が高校の	誉れをば
誉げよ諸人	諸共に

応援団々歌

- 一、金華城頭月冴えて
蓋世の英雄信長の
雄象すべて沈黙なり
雄図の跡に苔むしむ
- 二、嗚呼熱血児信長の
ありし昔を偲びては
覇業は夢と消え果てど
健児無量の想ひあり
- 三、熱血受けし一千の
桜の香り身に沁みて
心一つの健児等が
根城構えて百三十余年
- 四、悲壯の風の吹き荒び
校の徽章の桜花
混濁の波逆巻けど
身もて護る健児団
- 五、熱血なる敵の迫るとも
破邪の剣をぬき立てば
寄せ来る仇は多くとも
竜車に向う螳螂ぞ
- 六、敵に鬼神の勇あるも
我には紅き血潮あり
仇に天魔の計るるも
カラくれなるを見ずや君
- 七、さはあれ心せ同胞の
桜の花の散るあらば
香りは永き百三十余年
散るその下に死なん哉
- 八、誘う嵐に散らされず
朝日に匂ふ桜花
尽くせし心の現はれて
その花の下に我れ立たん

凱旋歌

- 一、泰山厲と消ゆるとも
誓つて桑梓に見えじと
我が身に功なかりせば
出でし華陽の健男児
- 二、されど見よ見よ今はこれ
姿を変えて悠々と
我が大丈夫は帰り来ぬ
身に大功の光そへ

岐高女校歌

一 ああすのらみ園 栄ゆるみ代に
われら起女 生れあひたる章
胸の鏡と 日々にあふく
教への道へ 物語

二 見よ稲葉山の 姿は高し
われら起女 高く心を保たじ
園の御為に 人の為に
力のかぎり つくさはや

三 きけ長良川の 瀬の音は清し
われら起女 清く心とみかかじ
はけみいそしみ 探かたく
明るき微笑 うつくしく

姫小松

一 学びの庭の 姫小松
千代の孫に たくへつ、
植えしその日のわくろりきね
いとや祝わん 諸共に

二 恵みのつゆに うらおいし
みとうゆのーき 姫小松
いよよますき 千しけし
千代に八十代にせかしかん

聖水くらぶ

高木 あい華

姫小松(創立記念日の歌)



岐高女 校歌



岐阜県民の歌

(昭和30年4月1日制定)

作詞 永繩 半助

作編曲 服部 正

爽やかに流れて

mf

み どり を そ め ー て あ さ の ひ ー が
 た か い こ え ー え に ゆ れ て い ー る
 み ね か ら み ね ー へ こ と り も よ ん で
 ぎ ふ は き の ー く に や ま ー の く ー に
mf
 の び る き ー ぼ う を う た お う よ

一、みどりをそめて 朝の日は

高い梢こすえに ゆれている嶺みねから嶺へ 小鳥もよんで

岐阜は木の国 山の国

伸びる希望きぼうを うたおうよ

二、つゞく平野の 雲遠く

虹ななの七いろ もえている村から街へ 生氣せいきに映はえて

岐阜は野の国 幸の国

力むすんで はごもうよ

三、名所史蹟に 風かおり

華ももみじも 鶉うすかがりも

かがやく文化に 色そえながら

岐阜は詩の国 水の国

はずむ心で 進もうよ

運営委員会の グラフィックひとこと集



▲全体会に運営委員が集結し、同窓会総会に向けての活動を確認



副委員長 塩谷義峰 (平成3年卒)
高校時代、特に目立たなかった私でしたが、ご指導いただいた先輩方、そして同級生の仲間が支えてくれたおかげで、何とか務め切ることができました。このご縁に感謝です。



▲「肩の力を抜いて、楽しくやろう」と木方委員長



▲2か月に1度のペースで部長会。一つひとつ課題をこなしていた



事務局長 鷲見博信 (昭和46年)
連絡調整、会議の設営、参加申し込みに対する応答などを担当しました。Eメールとファクスの有り難さを痛感。昔の事務局は大変だっただろうな。しかし、メールを受信したら返信する。これがエチケットだと気付かされました。



総務部 高橋一吉(昭和46年)
 総務部は、木方委員長が大まかな方向を示し、鷺見事務局長が大変細かい点まで気を配ってもらったので、たいしてやることもなく、他の部と比べて楽でした。正直助かりました。



財務部 嶋崎吉弘(昭和46年)
 高校時代は理系でしたが、何故か会計関係の仕事をしています。企業も赤字はいけません、今回のイベントも赤字にはできませんのでヒヤヒヤです。



広告部 安田 聡(昭和56年)
 広告部に限らず、同窓会幹事の仕事はとても大変です。しかしながら、30年以上逢っていない同級生の名前をみかけると大縄場で過ごした日々を思い出し、胸が熱くなりました。10年後も幹事頑張ります。



▲委員長を囲んで熱心に議論



動員部 横山理恵(昭和56年)
 出不精で自宅と職場を往復するだけの生活をしていました。運営委員会に誘っていただき、多くの同窓生の方々にお会いし、大変刺激を受けました。高校卒業後、ずっと音信不通だった友人とも連絡がつき、世界が広がった気がします。

在京動員部 今尾金久(昭和46年)
 初めて連絡を取る人たちも大勢いましたが、在京動員部を担当したおかげで良い人たちと接することができました。懐かしい人たちとも連絡を取り合うことができました。「仲間っていいなあ〜!」と改めて感じました。



会場部 松本治美(平成3年)
 同窓会自体にも初めての参加。何も分からないままのスタートですが、S46、S56、そして同級の皆さんと意見を交わしながら、是非とも会を成功させたいという思いです。日に日に忙しくなりますが、会場部として参加したことは心に残ることと思います。



会報部 伏見智子(昭和56年)
 10年前に引き続き運営委員を引き受けましたが、今回もなかなかお役に立てず、みなさんにご迷惑をお掛けする事ばかりでした。10年後はもっと力になりたいと思っています。当日は懐かしい顔に会えることを楽しみにしています。



来年に備え昭和47年卒組も
 全体会に顔をみせました。

▲左から本田勝、鬼頭明彦、太田秀之の3氏。「勉強させてもらいます」

平成26年度 同窓会総会運営委員会 名簿

委員長	木方伸一郎 (昭和46年)		
副委員長	早矢仕直彦 (昭和46年)	塩谷 義峰 (平成3年)	
事務局	◎鷺見 博信 (昭和46年)	○森島 祥哉 (平成3年)	
総務部	◎高橋 一吉 (昭和46年)	○林 達秀 (平成3年)	福地 和夫 (昭和46年)
	田中真美子 (平成3年)		
財務部	◎嶋崎 吉弘 (昭和46年)	○安浪 聖 (平成3年)	梅本 和郎 (昭和46年)
	田垣 博邦 (昭和46年)		
監査	木村 容子 (昭和46年)	藤川 師弘 (昭和56年)	
会報部	◎千田 龍彦 (昭和46年)	○伏見 智子 (昭和56年)	○深尾久美子 (平成3年)
	神谷 和孝 (昭和46年)	広井 妙子 (昭和46年)	柳原 正明 (平成3年)
広告部	◎福井 真一 (昭和46年)	○安田 聡 (昭和56年)	○折戸 恵介 (平成3年)
	浅野 幹雄 (昭和46年)	乾 博史 (昭和46年)	宇野 俊郎 (昭和46年)
	大槻 俊夫 (昭和46年)	河合 潔 (昭和46年)	木村 静之 (昭和46年)
	白木 善久 (昭和46年)	日野 晃紹 (昭和46年)	細野 哲弘 (昭和46年)
	松岡 力 (昭和46年)	山本 隆博 (昭和46年)	大野 裕 (昭和46年)
	鈴木荘太郎 (平成3年)		
動員部	◎鹿野 孝紀 (昭和46年)	○森島 祥哉 (平成3年)	江口 裕國 (昭和46年)
	黒田 修 (昭和46年)	関谷 啓子 (昭和46年)	関谷 紀子 (昭和46年)
	西川 佳志 (昭和46年)	早矢仕繁子 (昭和46年)	矢野 秀則 (昭和46年)
	上田 貴之 (昭和56年)	津崎 誠 (昭和56年)	堀 真奈美 (昭和56年)
	横山 理恵 (昭和56年)	松井 孝毅 (昭和56年)	村松 陽子 (昭和56年)
	濱野 正嗣 (平成3年)	山口 泰史 (平成3年)	
在京動員部	◎今尾 金久 (昭和46年)	岩下 志保 (昭和46年)	大橋 幸多 (昭和46年)
	土橋 正 (昭和46年)	総山 哲 (昭和46年)	細野 哲弘 (昭和46年)
	奥田 高志 (昭和56年)		
会場部	◎水谷 誠 (昭和46年)	○松本 健巳 (平成3年)	柴田 伸治 (昭和46年)
	白木 英治 (昭和46年)	杉山三四郎 (昭和46年)	高橋慶太郎 (昭和46年)
	田中 祐一 (昭和46年)	永田 守正 (昭和46年)	林 一男 (昭和46年)
	堀 英子 (昭和46年)	上松美由紀 (昭和56年)	内藤 真澄 (平成3年)
	佐藤 佳子 (平成3年)		
	アトラクション担当：小石亜希子 (平成3年)		
	懇親会司会担当：松本 治美 (平成3年)		

カッコ内は卒年 ◎事務局長、部長 ○副事務局長、副部長

編集後記

▽広告ご協賛の

御礼

平成二十六年年度岐阜高等学校同窓会総会の開催に伴う会報の発行に際し、広告のご協賛を賜りました皆様には厚く御礼申し上げます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上原則的に順不同となっております。何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成二十六年六月八日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会
平成二十六年度総会運営委員会

委員長 木方 伸一郎

高校卒業を前にした現代国語の授業で、先生から「孤独を恐れるな」という饒の言葉を贈られました。その後、人生の様々な節目で、たびたびこの言葉が脳裏に浮かび、行動を選択してきたように思います。「人に媚びるくらいなら、孤独でもいい」「群れるより、あえて孤塁を守ろう」などという形で…。

実際はこの言葉を言い訳に、「コミュニケーションを拒絶してきたのではないか」と気づいた時には、卒業から三十年以上経過していました。他人から見れば、私の仕事は、それなりに人脈を駆使する部類に入ります。「コミュニケーションを拒絶してきた」と言うのと、意外に思われるかもしれませんが。しかし、「コミュニケーションに必要な、相手の懐に飛び込んだり、相手と心底からぶつかったりすることを躊躇する自分がいたのです。

その時になって、ようやく先生がおっしゃった言葉の本当の意味に気付かされました。「勇気を奮って、まずぶつかりなさい」。その結果が孤独であっても構わないじゃないかと私たちを鼓舞していたのです。

今回、運営委員として同窓会総会を準備する日々は、私はもちろん、他のメンバーにとっても「勇気を奮って」を実践する機会になったのではないのでしょうか。三学年で構成するメンバーの中には、大半が初対面という委員もいたことでしょう。こんな時こそ、「勇気」が必要でした。運営委の全体会や部長会では互いに胸襟を開き、率直に意見を交わして、チームワークを育むことができました。

「会報」編集作業の中心は、恩師や同窓生から寄稿文を集めることです。初めて言葉やメールを交わす相手もいました。三学年それぞれの担当から無理なお願いをしたにもかかわらず、多くの恩師や同窓生から寄稿していただき、感謝にたえません。

個性あふれる文章からは、私が遠回りしてしまった「勇気」の実例にふれることもでき、改めて鼓舞された思いです。硬式野球部員の文章には、伝統を背負うことへの責任感がにじんで、こちらまでかしまり、元PTA会長と校長の座談会では、母校への熱い思いが伝わって、ひとときわうれしくなりました。

これが同窓会というものの喜びなのかもしれません。「会報」とともに、岐阜高校を卒業したことの幸せを届けることができたらと願っています。

同窓会総会運営委員会 会報部長 千田 龍彦